



2021年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年6月4日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東
 コード番号 2929 URL https://www.pharmafoods.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祚
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部部长 (氏名) 新谷 義信 TEL 075-394-8600
 四半期報告書提出予定日 2021年6月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年7月期第3四半期の連結業績（2020年8月1日～2021年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期第3四半期	33,748	203.7	2,633	—	2,716	—	1,553	—
2020年7月期第3四半期	11,112	41.2	△257	—	△225	—	△194	—

(注) 包括利益 2021年7月期第3四半期 1,529百万円 (—%) 2020年7月期第3四半期 △195百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2021年7月期第3四半期	円 銭 53.49	円 銭 53.46
2020年7月期第3四半期	△6.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2021年7月期第3四半期	百万円 18,003	百万円 6,153	% 34.2
2020年7月期	10,096	4,907	48.6

(参考) 自己資本 2021年7月期第3四半期 6,151百万円 2020年7月期 4,904百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年7月期	円 銭 —	円 銭 3.50	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 8.50
2021年7月期	—	5.00	—		
2021年7月期（予想）				10.00	15.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2021年7月期（予想）期末配当金の内訳 普通配当5円00銭 記念配当5円00銭（東証一部指定記念配当）

3. 2021年7月期の連結業績予想（2020年8月1日～2021年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,014	160.6	2,088	182.2	2,148	172.6	1,404	130.2	48.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年7月期3Q	29,057,600株	2020年7月期	29,043,400株
② 期末自己株式数	2021年7月期3Q	一株	2020年7月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年7月期3Q	29,051,563株	2020年7月期3Q	29,038,943株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「医薬」(Pharmaceuticals)と「食」(Foods)の融合「ファーマフーズ (Pharma Foods)」を実現するため、「Bio Business Triangle」をコンセプトに、「機能性素材 (Bio seeds)」「バイオメディカル (Bio medical)」「通信販売 (Bio value)」の3事業を主要事業としております。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、3度目の緊急事態宣言が発出されるなど、先行きの不透明な状況が続いております。人々の生活様式の急速な変化及び高齢化社会の進展による人口構造の変化は、健康や美容に対する意識をますます高めております。健康食品や化粧品の販売チャネルは、インターネットやドラッグストアでの販売の増加など、多様化が進展しております。

このような状況においても、当社グループでは、中長期での高成長や企業価値向上を目指して、極めて積極的な事業投資を継続して実行しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、広告宣伝費19,365百万円(前年同期は6,093百万円)、研究開発費354百万円(前年同期は329百万円)の投資を行いました。

その結果、「ニューモ[®]育毛剤」を中心に顧客獲得が進展し、2021年4月末時点の定期顧客件数は791,566件(前年同期は226,922件)となりました。機能性素材の研究においては、頭皮フローラを整えるカクテル成分を開発し、新製品への投入が決まるなど、商品開発力強化につながりました。創薬研究では、田辺三菱製薬株式会社との抗体医薬に関する独占的ライセンス契約締結をきっかけに、当社の抗体作製技術への評価が高まりました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、33,748百万円(前年同期は11,112百万円)となりました。育毛剤及び化粧品の販売がけん引し、当社グループ全体では前年同期比203.7%の大幅な増収を達成いたしました。

営業利益は2,633百万円(前年同期は257百万円の営業損失)となりました。通信販売事業におけるビジネスモデルは、高水準の広告宣伝投資を行いながらも、利益の創出ができる構造へと変化しております。その結果、当第3四半期連結会計期間は、四半期の営業利益としては過去最高の2,714百万円を計上いたしました。

また、当第3四半期連結累計期間の経常利益は2,716百万円(前年同期は225百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,553百万円(前年同期は194百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

各四半期別の経営成績の推移は以下のとおりです。

	前期		当期		
	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
売上高(百万円)	4,660	4,240	8,387	12,005	13,355
営業損益(百万円)	1,328	997	△1,428	1,346	2,714
経常損益(百万円)	1,353	1,014	△1,405	1,356	2,765

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

＜バイオメディカル事業＞

バイオメディカル事業では、当社独自のニワトリ由来抗体作製技術「ALAgene[®] technology (アラジンテクノロジー)」及び卵黄由来の生理活性ペプチド開発技術を用いた創薬事業を行っております。

「ALAgene[®] technology」は、従来技術では作製困難な創薬ターゲット分子に対する抗体作製を可能とする、当社の基盤技術であります。本技術を用いて「自己免疫疾患」「悪性腫瘍」を対象疾患とした抗体医薬の研究開発を行っております。

「自己免疫疾患プロジェクト」においては、2018年10月より2年間、田辺三菱製薬株式会社と抗体医薬に関する共同研究を推進してまいりました。本結果をもとに、当社と田辺三菱製薬株式会社は、2021年1月に独占的ライセンス契約を締結いたしました。今後は、開発段階に応じた開発マイルストンの支払いを受けることとなり、さらに、この抗体医薬品が5兆円にも及ぶ自己免疫疾患に対する抗体医薬市場へ上市された場合、全世界における販売額に応じたロイヤルティと販売マイルストンの支払いを受けることとなります。

これに加え、自己免疫疾患に関しては、創薬研究所内に「国際PAD研究センター」を設け、一連のPAD^{※1}関連ターゲットに関する創薬研究を推進し、創薬のパイプライン拡充が順調に進みました。多様な抗体が作製可能となる当社技術は、その有用性が高く評価されております。特に抗PAD2抗体については、ヒト化抗体作製

と薬効薬理試験を行っており、国内外の大手製薬企業と提携交渉を進めております。

「悪性腫瘍プロジェクト」においては、抗FSTL1抗体を用いた各種抗腫瘍試験を行うことで、製薬企業との提携交渉を継続しております。

また、当社では卵黄由来の生理活性ペプチド開発技術を用いて、骨形成に関与する治療薬の研究開発を行っております。

「骨形成プロジェクト」では、卵黄由来の骨形成ペプチド「リプロタイト[®]」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「平成30年度 難治性疾患実用化研究事業」に、東京大学及び長崎大学との共同研究事業として3年目の選定を受けており、研究開発を行っております。骨形成不全症の治療薬の候補として、「リプロタイト[®]」の作用機序の解明と、動物モデルでの薬効評価、薬物動態評価を行うことで、製薬企業との提携交渉を継続してまいります。

また、バイオメディカル事業では、新たな創薬ターゲットに対する抗体作製に加え、外部企業からの分析・効能評価試験等を受託するLSI（Life Science Information）事業を行っておりますが、新たな創薬ターゲットの研究開発に注力するため、受託試験の受注を控えたことにより、受託試験が減少いたしました。

これらの結果、バイオメディカル事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は350百万円（前年同期比108.3%増）、セグメント利益は128百万円（前年同期は14百万円のセグメント損失）となりました。

<機能性素材事業>

機能性素材事業では、独自の機能性食品素材を研究、開発し、食品メーカー等に販売しております。

当事業が属する機能性表示食品及び健康食品市場は、健康維持、増進への高い意識を背景に、市場規模が拡大しております。

当社の主力商品である「ファーマギャバ[®]」の売上高は、909百万円（前年同期比5.2%減）となりました。機能性表示食品制度における「GABA（ギャバ）」の届出件数は479件（2021年4月末時点）で、引続き第1位の採用実績を維持しており、食品メーカーによるGABAの採用拡大が、トップシェアである当社の「ファーマギャバ[®]」の受注拡大につながっております。

OEM事業の売上高は、573百万円（前年同期比51.3%増）となりました。国内を中心にヘルスケア企業向けダイエット食品及びナショナルブランド向けパウチゼリー等が増加いたしました。

骨形成成分である「ボーンペップ[®]」の売上高は、161百万円（前年同期比26.2%減）となりました。国内外の食品メーカー等に、食品及びサプリメントの原料として配合されております。

海外を中心に成長中の美白素材「Cerepron[®]（セレプロン）」の売上高は、38百万円（前年同期比12.6%減）となりました。引続き、中国及び東南アジア地域での販売に注力してまいります。

研究開発では、頭皮の菌バランスに着目したカクテル成分を新たに開発いたしました。数十種類の頭皮環境向け原料の中から、頭皮フローラを整える最適の配合比率を見つけ出すことに成功し、この成分を2021年2月に特許出願いたしました。当社通信販売製品への採用が決まっており、研究開発の成果が迅速に商品開発へとつながる体制となっております。

また、2021年4月に独立行政法人国際協力機構（JICA）と「ベトナム国妊婦の栄養改善に資する葉酸たまごの販売促進にかかる基礎調査」に係る業務委託契約を締結し、同事業を開始いたしました。葉酸の認知程度及び機能性食品に対するニーズや価値観を把握し、将来的には、アジアの大手食品総合企業グループをはじめとした現地商社と販売代理店契約を結び、海外売上を増加を目指してまいります。

以上の結果、機能性素材事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,927百万円（前年同期比1.5%増）、セグメント利益は494百万円（前年同期比19.0%減）となりました。

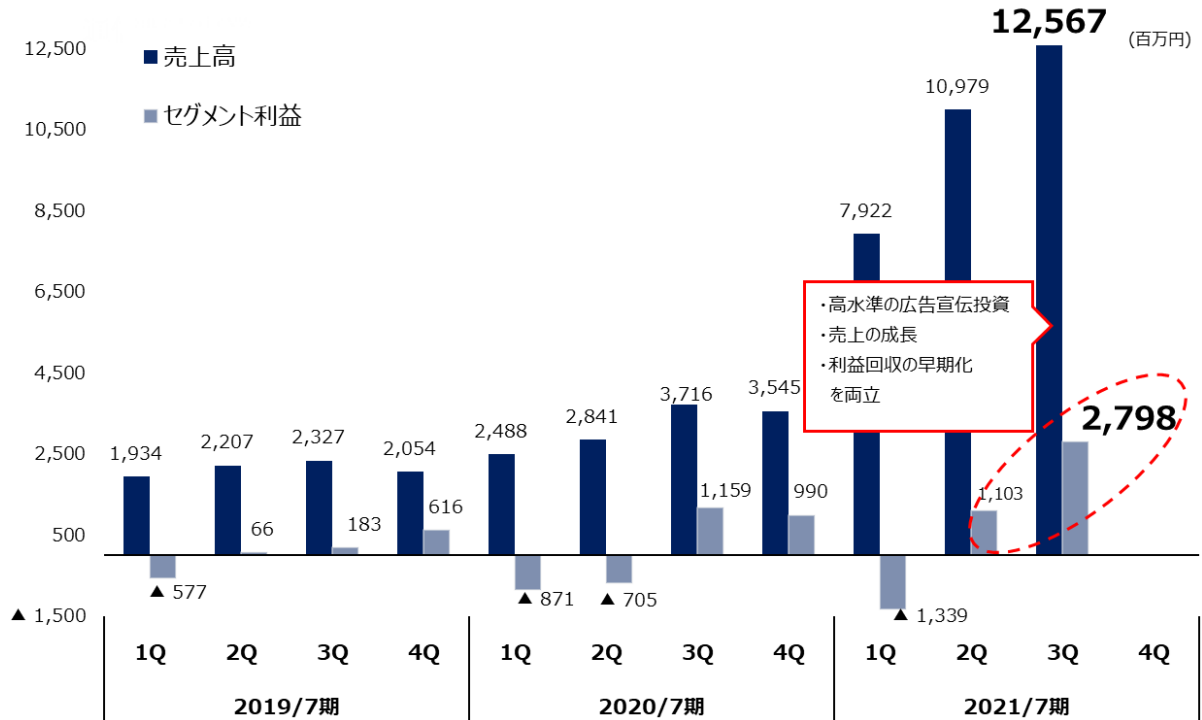
<通信販売事業>

通信販売事業では、「発明企業の通販事業」として当社独自の機能性素材を配合したサプリメント及び医薬部外品（「タマゴ基地[®]」ブランド）並びに化粧品（「SOGNANDO（ソニヤンド[®]）」ブランド等）の商品を、通信販売の方式で消費者に直接販売又はショッピング専門チャンネルへの卸売販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においても、広告宣伝を上期に集中投資し、下期で利益回収する「通期黒字化モデル」を継続いたしました。2021年4月末現在の定期顧客件数は、791,566件と高水準を維持しており、この基盤がもたらすリピート購入により、「利益回収の早期化」及び「利益水準の上昇」が続いております。

その結果、当第3四半期連結会計期間では、四半期のセグメント売上高12,567百万円、セグメント利益2,798百万円となりました。

通信販売事業の四半期経営成績の推移



「ニューモ[®]育毛剤」は、テレビ、WEB広告に加え、新聞広告など紙媒体においても顧客獲得に注力し、既存顧客のリピート購入も増加した結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、19,043百万円となりました。

サプリメントの販売では、「ニューモ[®]サプリメント」の売上高は2,912百万円となり、育毛剤との同時購入により、顧客単価の向上に寄与しております。また、膝関節サプリメント「タマゴサミン[®]」の売上高は、2,321百万円となり、利益に寄与しております。

化粧品の販売では、「ヘアポーテ[®] エクラ ボタニカルエアアカラーフォーム」の販売に注力いたしました。当第3四半期連結会計期間では、CPO^{※2}を重視した新規顧客獲得を行い、2021年4月末時点の定期顧客件数は、104,783件（2021年1月末時点では132,529件）となりました。

以上の結果、通信販売事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、31,469百万円（前年同期比247.9%増）と、前年同期比で大幅な増収となりました。広告宣伝費19,365百万円（前年同期比217.8%増）を計上しましたが、同時に利益回収が大きく進捗した結果、セグメント利益は2,562百万円（前年同期は416百万円のセグメント損失）となりました。

※1 PAD (Peptidylarginine deiminase)： 標的タンパクのアルギニンをシトルリン化する酵素。生体内に5種類のPADが存在し、各種疾患との関連が報告されている。

※2 Cost Per Order： 顧客1件を獲得するために要した広告宣伝費

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,907百万円増加し、18,003百万円（前期比78.3%増）となりました。これは主に、現金及び預金の増加4,346百万円、通信販売事業の販売拡大等による受取手形及び売掛金の増加1,935百万円、商品及び製品の増加939百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ6,661百万円増加し、11,850百万円（前期比128.4%増）となりました。これは主に、広告宣伝費の増加等による未払金の増加2,994百万円、コミットメントライン契約に基づく借入実行による短期借入金の増加2,500百万円、未払法人税等の増加992百万円、通信販売事業関連製品の製造費用の増加等による支払手形及び買掛金の増加342百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,245百万円増加し、6,153百万円（前期比25.4%増）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益1,553百万円及び配当金の支払290百万円による利益剰余金の増加1,263百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想については、事業環境が引続き好調を維持しており、業績進捗ペースが予想を上回る可能性を有しているものの、現時点においては据え置いております。

第4四半期連結会計期間も、投資効率を踏まえ高水準の広告投資を行う計画ではありますが、新型コロナウイルス感染症の影響による広告単価の動向及び東京オリンピック開催に伴う広告枠の追加買付の有無を見極めたうえで、通期業績予想を精査し、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,282,564	7,628,988
受取手形及び売掛金	2,238,986	4,174,038
商品及び製品	1,582,017	2,521,914
仕掛品	59,132	72,209
原材料及び貯蔵品	35,982	56,321
その他	241,648	678,921
貸倒引当金	△2,923	△4,301
流動資産合計	7,437,409	15,128,092
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	908,440	890,517
機械装置及び運搬具(純額)	6,868	4,898
工具、器具及び備品(純額)	104,175	125,816
土地	726,167	726,167
リース資産(純額)	23,018	21,892
有形固定資産合計	1,768,670	1,769,292
無形固定資産		
のれん	153,753	151,005
その他	44,994	48,348
無形固定資産合計	198,747	199,354
投資その他の資産		
投資有価証券	136,587	310,935
関係会社長期貸付金	54,350	36,168
その他	500,862	559,994
貸倒引当金	△200	△200
投資その他の資産合計	691,600	906,898
固定資産合計	2,659,018	2,875,545
資産合計	10,096,427	18,003,638

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	449,878	792,007
短期借入金	-	2,500,000
1年内返済予定の長期借入金	1,275,660	962,763
未払金	722,101	3,716,741
未払法人税等	157,937	1,150,150
賞与引当金	2,702	24,544
その他	229,298	1,000,985
流動負債合計	2,837,577	10,147,192
固定負債		
長期借入金	2,302,939	1,659,091
退職給付に係る負債	20,916	18,391
その他	27,115	25,862
固定負債合計	2,350,970	1,703,344
負債合計	5,188,548	11,850,537
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,033,776	2,037,631
資本剰余金	1,812,574	1,816,430
利益剰余金	1,048,698	2,312,123
株主資本合計	4,895,050	6,166,185
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,956	△15,010
繰延ヘッジ損益	△331	-
その他の包括利益累計額合計	9,625	△15,010
新株予約権	3,204	1,926
純資産合計	4,907,879	6,153,100
負債純資産合計	10,096,427	18,003,638

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
売上高	11,112,760	33,748,148
売上原価	2,294,547	5,062,270
売上総利益	8,818,213	28,685,878
販売費及び一般管理費		
研究開発費	329,372	354,216
広告宣伝費	6,093,066	19,365,301
支払手数料	738,022	1,973,014
のれん償却額	28,054	32,520
その他	1,886,946	4,327,811
販売費及び一般管理費合計	9,075,462	26,052,863
営業利益又は営業損失(△)	△257,248	2,633,014
営業外収益		
受取利息	3,417	2,602
受取配当金	1,266	364
為替差益	-	22,861
補助金収入	33,848	34,626
持分法による投資利益	-	9,752
業務受託料	10,206	12,384
その他	8,777	15,343
営業外収益合計	57,515	97,934
営業外費用		
支払利息	6,227	9,026
為替差損	4,539	-
持分法による投資損失	13,180	-
支払手数料	-	5,183
その他	1,706	371
営業外費用合計	25,653	14,581
経常利益又は経常損失(△)	△225,387	2,716,367
特別利益		
償却債権取立益	61,494	-
特別利益合計	61,494	-
特別損失		
固定資産除却損	1,712	969
特別損失合計	1,712	969
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△165,604	2,715,398
法人税等	28,544	1,161,468
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△194,149	1,553,929
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△194,149	1,553,929

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△194,149	1,553,929
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△698	△24,967
繰延ヘッジ損益	△203	331
その他の包括利益合計	△901	△24,636
四半期包括利益	△195,050	1,529,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△195,050	1,529,293

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月14日 取締役会	普通株式	101,642	3.50	2020年1月31日	2020年4月2日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月20日 定時株主総会	普通株式	145,217	5.00	2020年7月31日	2020年10月21日	利益剰余金

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年2月8日 取締役会	普通株式	145,288	5.00	2021年1月31日	2021年4月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年8月1日 至 2020年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	機能性素材 事業	通信販売 事業	バイオ メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,898,961	9,045,641	168,157	11,112,760	-	11,112,760
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,898,961	9,045,641	168,157	11,112,760	-	11,112,760
セグメント利益又は損失(△)	610,537	△416,613	△14,739	179,184	△436,433	△257,248

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△436,433千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△408,378千円及びのれん償却額△28,054千円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	機能性素材 事業	通信販売 事業	バイオ メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,927,937	31,469,981	350,228	33,748,148	-	33,748,148
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,927,937	31,469,981	350,228	33,748,148	-	33,748,148
セグメント利益	494,712	2,562,912	128,894	3,186,518	△553,504	2,633,014

(注)1. セグメント利益の調整額△553,504千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△520,983千円及びのれん償却額△32,520千円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。